

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
26 シベチャ 標茶 (標茶町)	町 駅	シペツチャ	< si-pet-ca >	大川端 <大・川・岸>	大川の丘陵の意味。 <釧路川がシペツ(本流)で、その岸の意。根室や斜里から山越えて来て、ここで初めて大川端に出るのでこの称があったのではなかろうか。> [旧記を見ると、斜里方面から釧路方面に向かう交通路であって、ここから水路となる重要な地点であったらしい。]	永田 <山田>	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
27 シベツ 士別 (士別市)	市 駅 峠	シペツ	si-pet	本流 (ほんとうの、大きい・川)	天塩川本流と剣淵川との合流点を中心とした土地で、ふつうは合流点付近を支流の名で呼ぶが、ここは例外で、シペツ(本流)という名が残って士別と呼ばれるようになった。	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
28 シベツ 標津 (標津町)	町 川	シペツ	< si-pet >	大・川	この近辺では大きな川のため。 <道内の諸所にあったシベツの名と合わせて考えると、これが元来の語義だったのではなかろうか。>	上原 <山田>	B	①〇 ②〇 ③〇 ④- si-petの方が妥当性が高いと思われる。
	山岳	シペオツ	< sipe-ot >	鮭有る <鮭・多くいる>	[永田方正は、sipe-otならば(e-oのeの音韻脱落が生じて)シポツ sipot と発音すべきなので、この説は誤りと書いている。]	松浦 <山田>		
29 シペトロ 薬取 (北方領土)	村	シペツオロ *シペトロ	< si-pet-or >	大きい・川・の所	ここに大川があったため。	蝦夷 <山田>	B	①〇 ②〇 ③- ④
30 シホロ 士幌 (士幌町)	町 川	スポロ	{ suporo }	滝の如き急流 [激流の所]	この所大岩石嶮々として一つのシュホロをなしたり。	松浦	C	①〇 ②- ③ ④
		スオルペツ <スホロペツ>	su-oru-pet { ? } < su-horo-pet >	鍋川{ ? } < 鍋・を水につけた・川 >	昔アイヌが鍋を川に入れたためという。今士幌川というのは松浦地図に「シュポロ」とあるため誤ったものである。 <語義のわからない名である。永田説は戦争があって、鍋を水につけたまま逃げたとの伝説によったもの。その意味なら su-horo-pet のように考えられていたのだろう。>	永田 <山田>		
31 シホロカベツ 志幌加別 (夕張市)	川	シホロカベツ	si-horkapet	本流の・ホロカベツ	志幌加別は、現在この川全体の名とされているが、元来の全体名はホロカベツで、シホロカベツは上流部の名であったらしい。ホロカベツは horka-pet(後戻りする・川)の意。溯って行くと本流の下の方に行くような感じのする川のこと。一つの川が相当な大きさの支流を分かった後の本流上部を si と呼び、この場合は相当な大きさのポンホロカベツを分かった後の本流の上流部を呼んだもの。	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
32 シマウタ 島歌 (瀬棚町)	地区 川	スマオタ	suma-ota	石・砂	<せまい砂浜の先の海中に千畳敷のような岩のある所で、岩のある砂浜と読んだものか。> [瀬棚町史は「石の混じった砂浜かと思われる。」と書いている。]	永田 <山田>	C	①〇 ②- ③ ④

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観	バ
33 シマコタン 島古丹 (寿都町)	地区	スマオコタン	< suma-o-kotan >	岩有村 <石が・ごちゃごちゃある・村>	<今は海岸道路が護岸の上を走っていて、その姿が見えない。>	松浦 <山田>	B	①○ ②○ ③- ④
34 シミノシタ 島ノ下 (富良野市)	地区 駅	モシクシマナイ *モシクシマナイ	mosir-kes-oma-nay	島・の末端・にある・川	本流の中に島があったのであろう。 「島の下」は、モシクシを訳したもののか、あるいはその地形によって和人が同じ意味の名をつけたかであったろう。	山田	B	①○ ②○ ③- ④
35 シママキ 島牧 (島牧村)	村	シマクオマキ	{ ? }	至って・岡・{ ? }	この浜深く地中に入るため{ ? }	松浦	C	①? ②- ③ ④
		スマオマイ	{ suma-oma-i }	石有 {石・ある・所}	-			①○ ②- ③ ④
		スマコマキ	{ ? }	岩の焼きたる{ ? }	-			①? ②- ③ ④
		スマコマクイ *スマコマキ	suma-ko-mak-i	石の背後{ ? }	-	永田	①? ②- ③ ④	
36 シママツ 島松 (恵庭市)	地区 川 駅 山岳	スマオマフ	suma-oma-p	石が・ある・もの(川)	西蝦夷日誌は「この川の源が総じて平磐であったため。」と書いた。 {松浦『戊午日誌』は「本名シュマオマフ。川上に岩がある故に号く」と書いている。川下には大きい石や岩はないが、上流に行くと大きな岩が多いという。}	山田	B	①○ ②○ ③○ ④-
37 シミス 清水 (清水町)	町 駅	ペケレペツ	peker-pet	清澄な・川	語意は「(ペ)ペケレペツ (pe)peker-pet (水が)清澄な・川」で、きれいな川が流れている。清水はその訳名だという。 {松浦解は「ペケレペ 明るき水 この川の水明るき故」。水が清冽という意味だろう。}	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
38 シムカブ 占冠 (占冠村)	村 駅	シムカブ	si-mukap	本流の・鵜川	地名の通常の形ならば、双珠別川を分かった所から上の本流がシムカブである。その音に占冠と当て字をしたのではなかろうか。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
39 シモカ 下川 (下川町)	町 山岳	パンケヌカナン	{ panke-nukanan }	{下流側の・ヌカナン川}	ここは名寄川南支流のパンケ(下の)・ヌカナン川と、パンケ(上の)・ヌカナン川が流れている所で、そのパンケ・ヌカナンを意識して「下川」という名にしたのだという。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
40 シモヌマ 下沼 (幌延町)	地区 駅	パンケト	panke-to	下流側の・沼	サロベツ川本流の東側に二つの大きな沼が南北に並んでいて、パンケ(下流側の)沼、パンケ(上流側の)沼と呼ばれている。そのパンケ沼を意識したもののという。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
41 下ハカイ マップ (今金町)	川	パンケハカエオ マブ	panke-hakae-oma-p	下の納屋 { ? }	ハカエは鮭を二つ割にしたものを蓄える納屋の意味。	永田	C	①? ②- ③ ④

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
42 シャクベツ 尺別 (音別町)	地区 川 駅	サクペツ	〈 sak-pet 〉	夏の川	アイヌが夏中この川に来て、食糧を得たため。 ----- 夏になるとその水が乾くため。	上原 〈山田〉	C	①〇 ②〇 ③－ ④ 諸説あり特定しがたい。
				〈無い・川〉				
		サツテペツ	〈 satte-pet 〉	〈乾かす・川〉	松浦 〈山田〉			
		サツペツ	sat-pet	涸川 〈乾く・川〉	永田 〈山田〉			
43 シャクマ 舎熊 (増毛町)	地区 駅	サックマ	sat-kuma	魚乾棚 [乾く・物干し棹]	山の形状から名付けられたという。 〈アイヌの古老の伝承らしい。頂上が平に伸びた山を、よくクマ・ネ・シリ(kuma-ne-sir 物乾し棚・のような・山)という。〉	永田 〈山田〉	C	①〇 ②〇 ③－ ④ どちらとも特定しがたい。
		イサツケクマ	{ i-satke-kuma }	魚・乾す・棹	〈場所がら海岸に乾場があったからの名だろう。〉	駅名 〈山田〉		
44 シャコタン 積丹 (積丹町)	地区 川 山岳 岬	サクコタン	sak-kotan	夏場所 〈夏・村〉	夏の好漁場だったため。 〈アイヌ時代には冬と夏で居所を変えることも少なくなかった。〉	永田 〈山田〉	B	①〇 ②〇 ③－ ④
45 シャダイ 社台 (白老町)	地区 川 駅	サタイペツ	sa-tay-pet	前林川 〈浜側の・林の・川〉	〈サ[sa]は前のことだが、地名では浜の方を指す。〉	永田 〈山田〉	C	①〇 ②－ ③ ④
46 シャナ 紗那 (北方領土)	村	サンナイ	〈 san-nay 〉	下る沢 〈浜の方へ出る・川〉	シヤナはシヤンナイ(san-nay に同じ)の詰りであって、雪解け水が勢よく押し出る川だったため。 〈然るべきアイヌ伝承を聞き伝えたものに違いない。松浦氏がこの伝承を書き残してくれたことは、全道にある同形、類型の川名を読む上での貴重な資料なのであった。〉	松浦 〈山田〉	B	①〇 ②〇 ③－ ④
47 シャナイ 斜内 (浜頓別町)	地区 山岳	ソナイ	{ so-nay }	滝の沢	ここの右に滝の沢があったため。	上原	C	諸説あり特定しがたい。 ①〇 ②〇 ③－ ④
				滝・川	—	駅名		
				岩礁・沢(岩礁地帯を流れる川)	諸説あるが、現地から見て、これが正しいようである。	浜頓別町 アイヌ語解説		
		シオナイポ	si-o-“ nay-po ”	糞・多き・小沢 昔、アイヌ部落があった所で、この川へ糞をしたという。 [naypo の po は名詞に接尾して、小さい、年若いという意味の名詞を作る指小辞。]	永田			

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				観	コメ	
48 シャナフチ 社名淵 (遠軽町)	地区	サンナイプトウ	< san-nay-putu >	下る・川・口	<社名淵川がサンナイ川で、その川口の所をサンナイプトウと呼んだという解釈。>	駅名 <山田>	C	①〇 ②〇 ③－ ④ どちらとも特定しがたい。	
		サナプトウ	sa-na-putu (puci)	浜・の方の・その口		山田		①〇 ②〇 ③－ ④	
49 シャリ 斜里 (斜里町)	地区 川 駅 山岳	サラ	sar	ヨシの生えた湿原	もとの辺一帯をさす地名であった。日高にも有名な sar (沙流)があるので、区別するため沙流をマツネ・サラ(女性のサラ)、斜里をピンネ・サラ(男性のサラ)と言うこともある。斜里川はサラ・ウン・ペツ(sar-un-pet ヨシ原・にある・川)。{河口付近は両岸ともヨシが密生しているという。}	知里	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇	
50 シュウベツ 支湧別 (白滝村)	川 山岳	シュペツ	si-yupet	ほんとうの(大きい)・湧別川	支湧別の「支」は支流の意味ではない。アイヌ時代はシ (si ほんとうの(あるいは大きい))という意味で呼ばれたもの。今は北の川の方が本流とされているが、当時は南川の方が主流とされていたので、この名で呼ばれたのであった。{湧別については別掲。}	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇	
51 シュエン 朱円 シマトツカリ (斜里町)	地区 川	スマトウカリペツ	suma-tukari-pet	石・のこちらの・川	この川を境にして斜里方面は砂浜、東の方は石原なのでこの名がついた。 <峰浜の市街の辺が昔はシュマトウカリと呼ばれ、川はシュマトウカリペツといわれた。その名からこの辺一帯の地名ができて、スマトウカリ→シュマトカリ→(当て字で)朱円→(読みが変化し音読みで) シュエンとなったもの。>	斜里 町史 <山田>	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇	
52 シュクシュベツ 宿主別 (平取町)	川	スクシペツ	< sukuš-pet >	<天気・川>	シュクシベツ。水明るくして、天気の良い様で、何を落してもよく見えるという意味。シュクシは天気の良いという意味。 <萱野茂氏は日当たりのよい川だといわれた。>	松浦 <山田>	C	①〇 ②〇 ③－ ④ どちらとも特定しがたい。	
		シクトウルベツ *シクトウルベツ	< sikutur-us-pet >	エゾネギ・の多い・沢		—		北海道 地名誌 <山田>	①〇 ②〇 ③－ ④
53 シュクツ 祝津 (小樽市)	地区	シクトウル	{ sikutur }	ノビル	ノビルまたはアサツキが多い所だった。 満山皆葱。 {江戸期タカシマ場所図には今の祝津隧道の崖岬に「スクツシ」と記しているという。}	上原	C	どちらとも特定しがたい。 ①〇 ②〇 ③－ ④	
		シクトウツ	sikutut	ヤマラッキョウ 山葱		{アサツキ}			永田
		シクツウシイ *シクトウシ	si-kut-us-i	全くの・岩崖・群在する・所					知里

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観測	コメント
54 シュクヅ 祝津 (室蘭市)	地区	シクトウル	< sikutur >	ノビル <エゾネギ>	— < sikutut-us-i の略された形か。> [エゾネギ=アサツキ] [明治 29 年図に「シクトツ岬」が描かれているという。]	蝦夷	C	どちらとも特定しがたい。 ①〇 ②〇 ③— ④
		シクトウツ	sikutut			永田 <山田>		
		シクツウシイ *シクトウシ	si-kut-us-i			知里		
55 シュククナイ 宿徳内 (釧路町)	地区	シクウルナイ *シクウルナイ	sikutur-us-nay	ノビル沢 <エゾネギ・群生する・川>	—	永田 <山田>	B	①〇 ②〇 ③— ④
56 シュツフ 聚富 (厚田村)	地区	シュツプ	{?}	{?}	川上に箱の如き山があったため。	松浦	B	①? ②— ③ ④ 「箱」に由来すると思われる。 ①〇 ②〇 ③— ④
		スウオブ	suwop	箱	川の形状が殆ど箱の様であったため。	永田		
57 シュプト 朱太 スツツ 寿都 (寿都町)	川 町湾	スプキペツ	supki-pet	ヨシ・川	昔、アイヌは朱太川筋に住居していたが、場所(運上屋)を現在地に開く時に、その川筋のアイヌをここに移し、名称もアイヌ出所の地名を用い、シュプキ場所と称した。後に訛ってスツツと呼んだ。 <川口の低湿原野がヨシ原だったのでシュプキ(スプキ。アイヌ語ではシャ行、サ行は同音)と呼ばれた。シュプキは他地方でもシュッキの形で地名に残っている。それから寿都に訛ったのであろう。また、川口の辺りがシュプキプトウ(朱太川の川口)と呼ばれ、それから朱太の名が出たのではないか。>	永田 <山田>	B	①〇 ②〇 ③— ④
58 シュマリナイ 朱鞠内 (幌加内町)	地区 川 湖	スマリナイ	sumari-nay	キツネ・川	<永田氏は現地に入らず、音にあわせてアイヌ語をつけただけだった。> [幌加内町史は同説を採り、「昔この付近には狐が多く棲息していたため、名付けたものであろう。」と書いている。]	永田 <山田>	C	①〇 ②— ③ ④
		スマウシペツ スマサンナイ スマアンペツ	{ suma-us-pet } { suma-san-nay } { suma-an-pet }	<石・多い・川> <石・流れ出る・川> <石・ある・川>	—	松浦 <山田>		
		スマリナイ	{ suma-ri-nay }	石・高い・川	いずれにも suma が付く松浦説から考えると、左記のような呼び名が残ったのではと考えた。[語法上は疑問。]	山田		
59 シュモンベツ 朱文別 (増毛町)	地区 川 駅	スプンペツ	< supun-pet >	ウグイ・川	ウグイが多かったため。 < supun に朱文の字を当てて初めは「しゅぶん」のように呼んでいたのではあろうか。>	松浦 <山田>	B	①〇 ②〇 ③— ④

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観	バ
60 シュクニタイ 春国岱 (根室市)	地区	スクニタイ	sunku-nitay	エゾマツ・林	{今でもエゾマツ林がひろがっているという。}	山田	B	①○ ②○ ③○ ④ー
61 シュンベツ 春別 (別海町)	地区	スムベツ	{ sum-pet }	油・川	昔鯨を捕り、油を絞ったためという。	松浦	C	①○ ②ー ③ ④
	川	スムベツ	sum-pet	溺死川{?}	エスムベツ{ esum-pet おぼれる・川}の略語だという。	永田		①? ②? ③ ④
62 ジョウザンケイ 定山溪 (札幌市)	地区 温泉	—	—	—	明治の初め定山というお坊さんが堂守をしたことからこの名がついたという。	山田	A	和名と思われる。
63 ショカンベツ 暑寒別 (増毛町)	川 山岳	ソカアンベツ	so-ka-an-pet	滝有川 〈滝・の上・にある・川〉	この水源滝の下まで行詰になり。 〈小滝状の連続する急流だという。あるいは滝の上の所に入っている川の意だったのかもしれない。〉	松浦 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
64 ショコツ 渚滑 (紋別市)	地区 川 山岳	ソコツ	so-kot	^{タキクボ} 滝凹 〈滝の・凹み＝滝つぼ〉	滝の下が凹んでいたため。 〈上流滝上市街の下手で本流が滝になり、そこが深くえぐれていて激流が流れているので、それが川名になったものらしい。〉	永田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○
65 ショサンベツ 初山別 (初山別村)	村 川	ソエサンベツ	so-e-san-pet	滝が・そこで・流れ出ている・川	旧図を見ると源流部は三つも滝になって流れ下っているし、支流筋にも滝がある。 {松浦氏は「本名ソウサンベツ。滝落ちる義なり」と書いている。単純に「so-san-pet 滝・下る・川」だったかもしれない。}	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○ 山田解あるいは、それから少し形を変えた形だったかもしれないが、「滝」に関係した名と思われる。
		スサムベツ	susam-pet	シシャモ・川	〈土地の人に聞くと、そんな川ではないらしい。〉 {この地方ではシシャモは獲れないという。}	永田 〈山田〉		①○ ②? ③ ④
66 ショヤ 庶野 (えりも町)	地区	ソヤ	so-ya	礫岩の・岸	ただし現在はその礫岸は築港工事の下に埋め立てられ、わずかにその付近に名残りが見られるだけである。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
67 ショロ 庶路 (白糠町)	地区 川 駅	シヨロロ	{?}	順風 {?}	この川格別に屈曲もなく川風涼風なため。	上原	C	①? ②ー ③ ④
		シヨロロマウエ	{?}	順風の勢 {?}	—	蝦夷		①? ②ー ③ ④
		ソリオロ *ソロロ	so-ri-oro → sororo	瀑布・高き・所	大雨の時瀑泉飛ぶ。	永田		①○ ②○ ③ー ④ 諸説あり特定しがたい。
		ソオロ	{ so-oro }	滝・のところ	{川の上流に滝があるという。}	駅名		①○ ②○ ③ー ④

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考			
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント		
68 シラ オイ 白老 (白老町)	町 川 駅 山岳	シララオイ	sirara-o-i	潮汐多き所{?}	この川に潮が多く上るため。 〈秦地名考や上原地名考は同様にシラリライで説いたが、間違いらしい(永田氏やバチラー博士の時代まで sirar には岩、潮の二つの語義があるとされてきたが、知里博士は潮の意はないとした)。〉	永田 〈山田〉	B	①? ②- ③ ④		
		シラウオイ	{ siraw-o-i }	アブ多き所 [アブ・多い・所]				アブが出てくるのが他より早いため。 [白老は雨の多いところなので、アブなど虫の発生は他の地域より早いという。]	松浦 〈山田〉	①○ ②○ ③○ ④-
				アブが多い地であったため。 〈地元の宮本エカシマトク老(故)に聞いたらアブが多いからじゃよと語った。〉						
69 シラ 舩 白滝 (白滝村)	村 駅 滝	-	-	-	湧別川の白滝から名付けられた和名。 [滝の名「白滝」については、松浦戊午日誌にポロソ (poro-so 大きな・滝)と記録されている。]	山田	A	和名と思われる。		
70 シラ ツ カリ 知津狩 (厚田村)	地区	シラツウカリ *シラツウカリ	〈 sirar-tukari 〉 ↓ 〈 sirattukari 〉	岩 ^{コナタ} の此方 〈岩・の手前〉	〈石狩の方からずっと砂浜続きであったのが初めて山崎が出ている所で、岩は見えないが土地の人に聞くと岬の先の海中には岩が所々に出ているのだという。〉	永田 〈山田〉	A	①○ ②○ ③○ ④○		
71 シラ スカ 白糠 (白糠町)	町 駅	シラライカ *シラリカ	sirar-ika	潮越す (潮が)岩礁・に溢れる	満潮時、川に潮が入ったため。 シララに「潮」の意味はなく、ただ「岩」のことである。 sirar-ika の意味から潮と誤った解がされるようになったもの。	上原 知里	C	①? ②- ③ ④ 諸説あり特定困難。 ①○ ②○ ③○ ④?		
		シラウカウ *シラルカウ	sirar-ukaw	岩石縫合 〈岩・重なりあう〉	岬端の大岩に名づく。 〈岩石重畳の意で、石炭岬の先端の大岩を考えたものらしい。〉	永田 〈山田〉		①○ ②○ ③○ ④?		
		シラライカ *シラリカ	sirar-ika-p	潮溢れる所 (潮が)岩・を越える・所	満潮時、川まで一面に潮が溢れたため。 古い絵図を見ると石炭岬の先の海中に岩礁が描かれている。岬から街を流れるオクネツ川までの海中が岩礁で、ずっと砂浜続きのこの辺一帯の中に岩礁があったので、この名がついたのであろう。正確には左記の形で、その語尾の-p が略されて呼びならわされたのだろうか。	山田		①? ②- ③ ④ ①○ ②○ ③○ ④?		
		シララカ	〈 sirar-ka 〉	平磯の岸 〈岩・の上(岸)〉	-	駅名 〈山田〉		①○ ②○ ③○ ④?		
		シラ フ 白符 (福島町)	地区 川	チリオブ *チロブ	cir-o-p	鳥・多き・所		-	永田	C

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観	バ
73 シリウチ 知内 (知内町)	町 川 駅	シリオチ	sir- {?}	地・越す {?}	この沢の辺で所々へ越えていったため。 〈オチに越すという意味があったか疑問。〉	上原 〈山田〉	B	①? ②- ③ ④ ①〇 ②〇 ③〇 ④- 永田解の方が自然な形と思 われる。
		チリオツイ *チロチ	〈 cir-ot-i) ↓ cir-oci	鳥いる所 〈鳥が・群居する・所〉	この川の近傍が鷹 <small>タカ</small> の名所であったため。 〔知内町HPは同説を採り、「鷹の産地として有名で、松 前藩が徳川將軍家に献上する15羽のうち、半数以上は 知内で捕獲したものと書いている。〕	永田 〈山田〉		
74 シリキシナイ 尻岸内 (恵山町)	川	シリキシララ	{ sirki-sirar }	模様の・岩	この地に模様のある岩があったためという。	上原	C	①〇 ②〇 ③- ④ 諸説あり特定しがたい。 ①〇 ②〇 ③- ④ ①〇 ②〇 ③- ④
		シリキシララナイ	{ sirki-sirar-nay }	岩壁に形像ある川	—	永田		
		シリケンナイ	{ sir-kes-nay }	山・下・川	{河口のところは東側が崖山続きであり、この地形から 出たものか。}			
75 シリシツ 後 静 (浜中町)	地区	シリスツ	sir-sut	山根 〈山・の根本〉	〈元来の後静は幌戸の西の小岬のところの名である。〉	永田 〈山田〉	B	①〇 ②〇 ③〇 ④-
76 シリッパ 尻 羽 (釧路町)	岬	シリパ	sir-pa	地、山の・頭=岬	シリパの名は諸地に多いが、この岬と余市のシリパはその 代表的なものである。 〔崖岬が海に突き出ている地形という。〕	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
77 シリト 知 人 (釧路市)	岬	シリエトウ *シレトウ	sir-etu	地・の鼻=岬	{浜中町史は同説を採り、「山が海につき出した岬をさし ている。』と書いている。}	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
78 シリベツ 尻 別 (喜茂別町)	地区 川	シリベツ	〈 si-ri-pet)	至って・高い・川 大高川	水源がシリベツ山(高所)だからの名。 〔地名の語法上は疑問がある。〕	上原 永田 〈山田〉	C	①? ②- ③ ④ ①〇 ②- ③ ④
		シリベツ	sir-pet	山の・川	長く山中を流れて来る川なので、こうではないかとも考 えて来た。	山田		
	山岳							
79 シレトク 知 床 (礼文町)	地区	シリエトク *シレトク	sir-etok	地面の・出っばった先端=岬	南北に細長い礼文島の最南端の所の地名。	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
80 シレトク 知 床 (斜里町)	地区 川 山岳 湖 岬 峠	シリエトク *シレトク	sir-etok	地の・突出部=岬	{斜里海岸から眺めると、羅臼岳や知床岳の稜線の北 の先に半島の突き出た形がよく分かるという。}	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
81 シロイシ 白 石 (札幌市)	地区 駅	—	—	—	明治 5 年奥州白石の藩主片倉小十郎が藩士を率いて 渡道。札幌と江別の間の土地を開拓し、郷土をしのんで 白石村と称したのが始まりである。	山田	A	和名と思われる。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
82 シロイワ 白岩 (余市町)	地区	レタラピラ	<retar-pira>	<白い・崖>	<余市に出る道の出足平峠 ^{デタルヒラ} の辺では、道ばたの山崖は目のさめるような白岩の壁である。翻訳して今の白岩町となったのであろう。>	永田 <山田>	B	①〇 ②〇 ③〇 ④ー
83 シンノツ 新篠津 (新篠津村)	村	シンノツ *シンノツ	sir-not ↓ sinnot	山・崎	<元来の篠津村は西から南を回って流れている石狩川と当別町との間の広い原野であったが、明治29年その北東の大部分が分離して新篠津村を称した。篠津の語源と思われる山の・崎については、一帯は低平地なのでよく分からないが、当別町に入っている部分は篠津川と当別川に挟まれた低い丘陵が長く南に突き出していて、その丘陵を呼んで、それがこの名のもとになったのかもしれない。>	永田 <山田>	C	①〇 ②ー ③ ④
84 シントク 新得 (新得町)	町 駅 山岳	シットク	sittok	肘	sittok は川曲がりや山の突出部をいう。この場合は新得山の突出部をいったのではなかろうか。	山田 新得町史 90年	B	①〇 ②〇 ③〇 ④ー 山田解の方が妥当と思われる。 ①〇 ②? ③ ④
		シントコ	{ sintoko }	宝物を入れる漆器	この地でその漆器が作られたことから、地名になったという左の説(十勝地名解)も根強い。			
85 シントツカワ 新十津川 (新十津川町)	町 駅	—	—	—	明治22年奈良県十津川の住民600戸が大挙して移住した所で、その故郷の名にちなんで名付けられた。	山田	A	和名と思われる。

【ス】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
1 スナガワ 砂川 (砂川市)	市 駅	オタウシナイ *オタシナイ	{“ota-us-nay”} ↓ {“otas-nay”}	{歌志内川(砂浜が・ついている・川)}	元来は奈江村であったが、明治36年砂川村と改称した。砂川はオタシナイ(歌志内)川を意識してつくった名であろう。 [砂川市史は「広範な地域の名称であったオタウシナイを意識したもので、元の地名はオタウシナイに漢字をあてた歌臼内であった」と書いている。]	山田	A	①〇 ②〇 ③〇 ④〇
2 スネコ 洲根子 (上ノ国町)	岬	シネエムコ	<sine-emko>	一つの水上み <一つの・水源>	この辺の数ヶ所の沢の水上み一つだったため。	上原 <山田>	C	①〇 ②〇 ③ー ④ どちらとも特定しがたい。 ①〇 ②〇 ③〇 ④ー
		シリエンコロ *シレンコロ	sir-enkor	山額 <山・鼻=岬>	—	永田 <山田>		
3 スベツ 須部都 (月形町)	川	シペツ	si-pet	シペツ鳥 {?}	シペツシペツと鳴く鳥が多かったため。	永田 山田	B	①? ②ー ③ ④ 山田解の方が自然な形と思われる。 ①〇 ②〇 ③〇 ④ー
				大きい・川	この辺では長い川で、松浦図ではシヘツと書かれた。「大・川」あるいは「本・流」の意だったのではなかろうか。			

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
4 スマウマナイ 須麻馬内 (滝川市)	川	スマオナイ	suma-o-nay	石川 {石が・多い・川}	上流の山下に大石が多かったため。 {滝川市史は「山下に大石が多いので名付けられた。」 と書いている。}	永田	B	①○ ②○ ③－ ④ いずれにせよ「石がある(多い)」ことが名の元と思われる。
		スマオマナイ	suma-oma-nay	石が・ある・川	－	山田		

【セ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観ル	コメント
1 セオイ 背負 (豊頃町)	地区	セイオイ *セヨイ	sey-o-i	貝(殻)が・多くある・もの(川)	{貝殻の化石は出ていないという。}	山田	B	①○ ②○ ③? ④
2 セキナイ 関内 (熊石町)	地区 川	スプキナイ	supki-nay	カヤ・沢	－	永田	C	①○ ②－ ③ ④
3 セキホ外ウケ 石北峠 (上川町)	峠	－	－	－	石狩・北見の峠の意であろう。	山田	A	「石狩」、「北見」参照。
4 セセキ 瀬石 (羅臼町)	地区 温泉	セセクイ *セセキ	sesek-i	熱い・所＝温泉	内地に近い地方では、温泉のことを日本語伝来らしいユ (yu)で呼ぶが、東部の方では古い言葉らしいセセキで 呼んでいたようである。	山田	A	①○ ②○ ③○ ④○
5 セタ 瀬棚 (瀬棚町)	町	セタナイ	seta-nay	犬・川	不明。	上原	C	①○ ②－ ③ ④
					原名セタルペシペナイ(seta-rupespe-nay 犬路川)。昔 から略してセタナイと呼ばれた。	永田		
					神の召使いの大犬が山から下りてきて、この海に入り岩 となったという伝説による。	松浦		
					馬場川筋に山犬が住んでいたの、セタナイの名が残っ たのだろうか。	山田		
6 セツリ 雪裡 (鶴居村)	地区	セツチリ	set-cir	巢・鳥	中流の崖に巨鳥が巣をつくっていた。(八重九郎翁伝)	山田	B	①○ ②○ ③－ ④ いずれにせよ「set-cir」に関し た名と思われる。
	川	セツチリウシイ *セツチルシ	set-cir-us-i	巢・鳥・多い・所	クマタカ多き所。	永田		